（1）トマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	ｲﾝﾌﾞﾚｯｼｮﾝｸﾘｱ	ﾊﾞﾁﾙｽ ｱﾐﾛﾘｸｴﾌｧｼｴﾝｽ水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300㍑/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	ｶﾘｸﾞﾘｰﾝ	炭酸水素ｶﾘｳﾑ水溶剤	NC		800～1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	-	ﾄﾏﾄ
	ｸﾛｽｱｳﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾘｵﾌｪﾉﾝ水和剤	50		3000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｼﾞｰﾌｧｲﾝ水和剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ･銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500㍑/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	ﾃｰｸ水和剤	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ･ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾈｸｽﾀｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｲｿﾋﾟﾗｻﾞﾑ水和剤	7		1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾊｰﾓﾒｲﾄ水溶剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ水溶剤	NC		800～1000倍	150～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	園芸ﾎﾞﾙﾄﾞｰ	硫黄･銅水和剤	"UN(I*),M1		800倍	100～300㍑/10a	-	散布	-	ﾄﾏﾄ
疫病	Zﾎﾞﾙﾄﾞｰ	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300㍑/10a	-	散布	-	ﾄﾏﾄ
	ｶｽﾐﾝﾎﾞﾙﾄﾞｰ	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ･銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｻﾞﾝﾌﾞﾛDMﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｱﾒﾄｸﾄﾗｼﾞﾝ･ｼﾞﾒﾄﾓﾙﾌ水和剤	40,45		1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
かいよう病	ｶｽﾐﾝﾎﾞﾙﾄﾞｰ	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ･銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
菌核病	ｶﾝﾀｽﾄﾞﾗｲﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	7		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｹﾞｯﾀｰ水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ･ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｽｸﾚｱﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾏﾝﾃﾞｽﾄﾛﾋﾞﾝ水和剤	11		2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
すすかび病	ｼｸﾞﾅﾑWDG	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ･ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	11,7		2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾄﾘﾌﾐﾝ水和剤	ﾄﾘﾌﾙﾐｿﾞｰﾙ水和剤	3		3000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	園芸ﾎﾞﾙﾄﾞｰ	硫黄･銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300㍑/10a	-	散布	-	ﾄﾏﾄ
苗立枯病	ｵｰｿｻｲﾄﾞ水和剤80	ｷｬﾌﾟﾀﾝ水和剤	M4		800倍	2㍑/㎡	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	ﾄﾏﾄ
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ﾄﾏﾄ
苗立枯病(ﾘｿﾞｸﾄﾆｱ菌)	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		1000倍	3㍑/㎡	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	土壌灌注	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾊﾞｼﾀｯｸ水和剤75	ﾒﾌﾟﾛﾆﾙ水和剤	7		750～1500倍	3㍑/㎡	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	ﾄﾏﾄ
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ﾄﾏﾄ
灰色かび病	ｱﾌｪｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ水和剤	7		2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｲﾝﾌﾞﾚｯｼｮﾝｸﾘｱ	ﾊﾞﾁﾙｽ ｱﾐﾛﾘｸｴﾌｧｼｴﾝｽ水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300㍑/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	ｶﾝﾀｽﾄﾞﾗｲﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	7		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｹﾞｯﾀｰ水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ･ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｼｸﾞﾅﾑWDG	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ･ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	11,7		2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｽﾐﾚｯｸｽ水和剤	ﾌﾟﾛｼﾐﾄﾞﾝ水和剤	2		1000～2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｾｲﾋﾞｱｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ20	ﾌﾙｼﾞｵｷｿﾆﾙ水和剤	12		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾊﾟﾚｰﾄﾞ20ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ水和剤	7		2000～4000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾋﾟｸｼｵDF	ﾌｪﾝﾋﾟﾗｻﾞﾐﾝ水和剤	17		2000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾌｧﾝﾀｼﾞｽﾀ顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ水和剤	11		2000～3000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾌﾙﾋﾟｶﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾒﾊﾟﾆﾋﾟﾘﾑ水和剤	9		2000～3000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾎﾞﾄｷﾗｰ水和剤	ﾊﾞﾁﾙｽ ｽﾞﾌﾞﾁﾘｽ水和剤	BM2		1000倍	150～300㍑/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10㍑/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					7.5～15g/10a/日		発病前～発病初期	ダクト内投入	-	ﾄﾏﾄ
	ﾎﾟﾘｵｷｼﾝAL水和剤	ﾎﾟﾘｵｷｼﾝ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾛﾌﾞﾗｰﾙ水和剤	ｲﾌﾟﾛｼﾞｵﾝ水和剤	2		1000～1500倍	100～300㍑/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
					200g/10a	5㍑/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	ﾄﾏﾄ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
葉かび病	ｶｽﾐﾝﾎﾞﾙﾄﾞｰ	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｶﾘｸﾞﾘｰﾝ	炭酸水素ｶﾘｳﾑ水溶剤	NC		800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	-	ﾄﾏﾄ
	ｹﾞｯﾀｰ水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ・ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾃｰｸ水和剤	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ・ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾄﾞｰｼｬｽﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ・TPN水和剤	21,M5		1000倍	150～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾆﾏｲﾊﾞｰ水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ・ﾍﾞﾉﾐﾙ水和剤	1,10		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾈｸｽﾀｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｲｿﾋﾟﾗｻﾞﾑ水和剤	7		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾊﾟﾚｰﾄﾞ20ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ水和剤	7		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾌｧﾝﾀｼﾞｽﾀ顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ水和剤	11		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	園芸ﾎﾞﾙﾄﾞｰ	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	-	散布	-	ﾄﾏﾄ
斑点細菌病	Zﾎﾞﾙﾄﾞｰ	銅水和剤	M1		500倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	-	散布	-	野菜類(ｷｬﾍﾞﾂを除く)
	ｶｽﾐﾝﾎﾞﾙﾄﾞｰ	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
斑点病	ﾛﾌﾞﾗｰﾙ水和剤	ｲﾌﾟﾛｼﾞｵﾝ水和剤	2		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
輪紋病	Zﾎﾞﾙﾄﾞｰ	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	-	散布	-	ﾄﾏﾄ
	ｶｽﾐﾝﾎﾞﾙﾄﾞｰ	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
ｱｻﾞﾐｳﾏ類	ｽﾋﾟﾉｴｰｽ顆粒水和剤	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤	5		5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾃﾞｨｱﾅSC	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤	5		2500～5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	ｱﾄﾞﾏｲﾔｰ水和剤	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ水和剤	4A	劇	2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｱﾍﾞｲﾙ粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ・ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ﾄﾏﾄ
	ｵﾙﾄﾗﾝ粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	ﾄﾏﾄ
	ｼﾞｪｲｴｰｽ粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾁｪｽ顆粒水和剤	ﾋﾟﾒﾄﾛｼﾞﾝ水和剤	9B		5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞﾘﾏｰｸSC	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20ﾘｯﾄﾙ(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾏﾗｿﾝ乳剤	ﾏﾗｿﾝ乳剤	1B		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	ｱﾌｧｰﾑ乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｴｽﾏﾙｸDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ乳剤	15		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ｽﾋﾟﾉｴｰｽ顆粒水和剤	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤	5		5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾏｯﾁ乳剤	ﾙﾌｪﾇﾛﾝ乳剤	15		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾏﾄﾘｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｸﾛﾏﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ水和剤	18		1000～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
ｵﾝｼﾂｺﾅｼﾞﾗﾐ	ｱﾃﾞｨｵﾝ乳剤	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ乳剤	3A		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｵﾙﾄﾗﾝ粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	ﾄﾏﾄ
	ｼﾞｪｲｴｰｽ粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	ﾄﾏﾄ
ｵﾝｼﾂｺﾅｼﾞﾗﾐ幼虫	ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞ水和剤	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝ水和剤	16		1000～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	ｱｸﾞﾘﾒｯｸ※	ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｱﾄﾞﾏｲﾔｰ水和剤	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ水和剤	4A	劇	2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｱﾆｷ乳剤※	ﾚﾋﾟﾒｸﾁﾝ乳剤	6		1000～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｱﾍﾞｲﾙ粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ・ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ﾄﾏﾄ
	ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤※	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ水溶剤	4A		100倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0ﾘｯﾄﾙ)当り0.5ﾘｯﾄﾙ灌注	鉢上時又は定植時	灌注	1回	ﾄﾏﾄ
					2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｸﾞﾚｰｼｱ乳剤	ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ乳剤	30		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ｺﾙﾄ顆粒水和剤※	ﾋﾟﾘﾌﾙｷﾅｿﾞﾝ水和剤	9B		4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤※	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ水溶剤	4A		100倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0ﾘｯﾄﾙ)当り0.5ﾘｯﾄﾙ灌注	鉢上時又は定植時	灌注	1回	ﾄﾏﾄ
					2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾀﾞﾌﾞﾙｼｭｰﾀｰSE	脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ・ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤	「-」,5		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾁｪｽ顆粒水和剤	ﾋﾟﾒﾄﾛｼﾞﾝ水和剤	9B		5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾑﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｽﾙﾎｷｻﾌﾛﾙ水和剤	4C		1000～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾄﾚﾎﾞﾝ乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ乳剤	3A		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾌﾟﾘﾛｯｿ粒剤ｵﾒｶﾞ	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	ﾄﾏﾄ
					2g/株		鉢上げ時	育苗培土混和	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞｽﾄｶﾞｰﾄﾞ粒剤	ﾆﾃﾝﾋﾟﾗﾑ粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	ﾄﾏﾄ
					1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	ﾄﾏﾄ
					5g/培土ﾘｯﾄﾙ		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	ﾄﾏﾄ
					ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60cm､使用土壌約1.5～4ﾘｯﾄﾙ)当り50g散布		育苗期後半	散布	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞﾈﾋﾞｱOD	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤	28		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞﾘﾏｰｸSC	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20ﾘｯﾄﾙ(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾓﾚｽﾀﾝ水和剤	ｷﾉｷｻﾘﾝ系水和剤	"UN(I*)		1500～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾗﾉｰﾃｰﾌﾟ	ﾋﾟﾘﾌﾟﾛｷｼﾌｪﾝ剤	7C		10～50㎡/10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)
	粘着くん液剤	ﾃﾞﾝﾌﾟﾝ液剤	「-」		100倍	150～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ﾄﾏﾄｻﾋﾞﾀﾞﾆ	ｱﾌｧｰﾑ乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｲｵｳﾌﾛｱﾌﾞﾙ	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	発生初期	散布	-	ﾄﾏﾄ
	ﾏｯﾁ乳剤	ﾙﾌｪﾇﾛﾝ乳剤	15		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	ｶﾞｰﾄﾞﾎｰﾌﾟ液剤	ﾎｽﾁｱｾﾞｰﾄ液剤	1B	劇	4000倍	2ﾘｯﾄﾙ/㎡	収穫前日まで	土壌灌注	1回	ﾄﾏﾄ
ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	ﾏｯﾁ乳剤	ﾙﾌｪﾇﾛﾝ乳剤	15		3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
ﾊﾀﾞﾆ類	ﾀﾞﾌﾞﾙｼｭｰﾀｰSE	脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ・ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤	「-」,5		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	ｱﾌｧｰﾑ乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ﾄﾏﾄ
	ｱﾍﾞｲﾙ粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ・ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ﾄﾏﾄ
	ﾀﾞﾌﾞﾙｼｭｰﾀｰSE	脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ・ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤	「-」,5		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞﾈﾋﾞｱOD	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤	28		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ
	ﾍﾞﾘﾏｰｸSC	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20ﾘｯﾄﾙ（1株当り25～50mL）	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ﾄﾏﾄ
ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ乳剤	15		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ乳剤	15		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ﾄﾏﾄ
	ｺﾃﾂﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ水和剤	13	劇	2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ﾄﾏﾄ

※　タバココナジラミバイオタイプQに効果あり（福井県農業試験場調べ）

トマト黄化葉巻病対策

１ トマト黄化葉巻病について

(1) 病原ウイルス

トマト黄化葉巻ウイルス（Tomato yellow leaf curl virus ：TYLCV）

(2) 病　徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。
病勢が進むと頂部が叢生し、茎部の節間が短くなり株全体が黄化萎縮する。

(3) ウイルスの伝染源

罹病しているトマトと考えられる。

(4) ウイルスの伝染方法

タバココナジラミバイオタイプ B および Q によって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、他の害虫（オンシツコナジラミなど）による虫媒伝染はしないが、接ぎ木伝染はする。

２ 防除対策

物理的防除

・0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、タバココナジラミのハウス内への侵入を防ぐ（換気扇や遮光等施設内の高温対策が必要）。
・黄色粘着板を設置し、誘殺、発生消長の把握に用いる。
・太陽光反射マルチ、UV除去フィルムを利用し、タバココナジラミの侵入を阻止する。

耕種的防除

・冬期間中に無栽培期間を設け、伝染源となるトマトをなくす。また、ハウス内を寒さにあて、タバココナジラミの越冬を防ぐ。
・雑草はタバココナジラミの繁殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
・発病株は見つけ次第すぐに抜き取る。その際、発病株は伝染源にならないよう土中に埋める、ビニール袋などで密封・枯死させてから廃棄する等して処分し、圃場周辺に放置しない。

化学的防除

・は種時にベストガード等の粒剤を混和する。購入苗は納入後すぐにベストガード等の粒剤を散布し、タバココナジラミの密度抑制に努める。（育苗期間の防除薬剤を確認しておくこと）
・タバココナジラミの発生が見られたら、すぐに防除する。
・散布時は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。（次頁表参考）

【参考】トマトのタバココナジラミ（コナジラミ類）防除薬剤の一覧

IRAC コード	防除方法			農薬使用基準		注意事項	バイオタイプ	
	薬剤名	使用濃度	10アール当たり使用量	使用時期（収穫何日前まで）	使用回数		B	Q
3A	トレボン乳剤	1,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	×
4A	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和 1～2g/株		定植時	1回		○	○
	ベストガード水溶剤	1,000～2,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アドマイヤー水和剤	2,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	△
	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	2,000～3,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	○
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	△
4A+28	アベイル粒剤		2g/株	育苗期後半～定植当日	1回		○	△
4C	トランスフォームフロアブル	1,000～2,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	○
5+未	ダブルシューターSE	1,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	○
6	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アグリメック	500～1,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
7C	ラノーテープ		10～50㎡	栽培期間中	1回	施設栽培に限る	○	×
9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
	コルト顆粒水和剤	4,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	△
16	アプロード水和剤	1,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回	幼虫のみの登録	○	△
23	クリアザールフロアブル	2,000～4,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	○
28	ベネビアOD	2,000倍	100～300ℓ	前日まで	3回		○	○
	プリロッソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～定植時	1回		○	○
	ベリマーク SC	25㎖/400株	10～20ℓ/400株	育苗期後半～定植当日	1回		○	○
30	グレーシア乳剤	2,000倍	100～300ℓ	前日まで	2回		○	○
UN	モレスタン水和剤	1,500～2,000倍	100～300ℓ	前日まで	5回		○	△
未	粘着くん液剤	100倍	150～300ℓ	前日まで	―		○	○

※JA全農、福井県農試調べ　○・・・効果あり　△・・・効果あるものと劣るものがある　×・・・効果劣る

トマト灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除対策

1 発生生態

灰色かび病…果実、花弁、葉、茎に発生。被害部が褐変して、灰色のかびを生じる。発病適温は 15～23℃（22～23℃で、湿度が 85～90%以上の条件が続くと激発）。胞子の飛散は、曇雨天の時に多い。

葉かび病 …葉に発生。初め葉裏に灰黄色～緑褐色のビロード状のかびを生じ、その後灰褐色～灰紫色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 20～25℃。感染から発病までの期間は約 2 週間。外観ですすかび病との区別は困難。

すすかび病…葉に発生。初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じ、進展すると円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり灰褐色～黒褐色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 26～28℃。

2. 防除のポイント

1） 換気や灌水量に注意。低温時は暖房機や循環扇による通風により植物体への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
2） マルチを行い、ハウス内の湿度の上昇や土壌からの病原菌の伝染を防止する。
3） 整枝、剪定により過繁茂を避け、採光や通風をよくする。また、適切な肥培管理に努め、健全な生育を促す。
4） 発病した果実や葉等は伝染源となるため、速やかに除去し圃場外で処分する。
5） 発病前から薬剤散布を行い、予防に努める。
6） 耐性菌の発生を抑えるため、同一系統および同一薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

【参考】トマトの灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除薬剤

FRAC コード	農薬の名称	使用時期	灰色かび病	葉かび病	すすかび病	うどんこ病	輪紋病	疫病
2	ロブラール水和剤	収穫前日まで	○				○	
	スミレックス水和剤	収穫前日まで	○					
1+10	ゲッター水和剤	収穫前日まで	○	○				
	ニマイバー水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
12	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	○					
9	フルピカフロアブル	収穫前日まで	○					
3+M3	テーク水和剤	収穫前日まで		○		○		○
3	トリフミン水和剤	収穫前日まで		○	○	○		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	○	○	○			
7	アフェットフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	カンタスドライフロアブル	収穫前日まで	○	○				
	パレード 20 フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	ネクスター―フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
7+11	シグナム WDG	収穫前日まで	○	○	○	○		
M7	ベルクート水和剤	収穫前日まで	○	○				
21+M5	ドーシャスフロアブル	収穫前日まで		○			○	○
24+M1	カスミンボルドー	収穫前日まで		○			○	○
19	ポリオキシン AL 水和剤	収穫前日まで	○	○				
BM2	インプレッションクリア	発病前～発病初期まで	○	○	○	○		
	エコショット	収穫前日まで	○	○				
	ボトキラー水和剤	発病前～発病初期	○			○		
M5	ダコニール 1000	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○
M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日まで		○			○	○
17	ピクシオ DF	収穫前日まで	○					
NC	カリグリーン	収穫前日まで	○	○		○		
	ハーモメイト水溶剤	収穫前日まで	○			○		

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認すること。

注） 地域により、灰色かび病、葉かび病に対するN-ﾌｪﾆﾙｶｰﾊﾞﾒｰﾄ系、ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ系薬剤効果が低下しているところがあるので、注意する。